



2018年2月28日

マカオのワン・プラットフォーム戦略の動向（仮訳）

マカオ特別行政区の2016～2020年の5カ年計画に基づき、マカオは、中国とポルトガル語圏国家（PSCs）の商業・貿易協力のためのサービスプラットフォームとしての自らの役割を新たな水準に高めようとしている。この計画はワン・プラットフォーム戦略とも呼ばれる。最終的には、計画によって中国とPSCsの協力関係が強化され、マカオ自体の多角的かつ持続可能な経済発展が促進されることが期待されている。

中国政府の政策では、マカオには中国とPSCsの商業・貿易の仲介者としての役割を果たすことが求められている。政府は2011年発表の第12次5カ年計画において、中国・PSCs間の協力のためのサービスプラットフォームとして、マカオの開発を加速することを提案した。同計画に続く[第13次5カ年計画](#)（2016年発表）では、マカオの商業、貿易、コンベンション・展示会セクターの開発のために必要な事項が明記されている。

サービスプラットフォームとしてのマカオの開発

中国・PSCs間のサービスプラットフォームとしてのマカオの役割は、2003年10月の[中国ポルトガル語圏国家経済貿易協力フォーラム（マカオ）](#)（略称はフォーラム・マカオ）の設置によって初めて確立された。フォーラム・マカオは中央政府による取り組みの一環で、貿易・経済開発を促進するための多国間の政府間枠組みである。フォーラムの目的は、中国・PSCs間の架け橋としてのマカオの役割を強調することを通じて、両者の経済・貿易連携を強化することにある。

フォーラム・マカオの設置以来、アンゴラ、ブラジル、カーボヴェルデ、ギニアビサウ、モザンビーク、ポルトガル、サントメ・プリンシペおよび東ティモールの8カ国のPSCsが同フォーラムを支持し、これに参加してきた。閣僚会議は3年ごとにマカオで開催されている。現在に至るまで5回のフォーラム・マカオ閣僚会議が開かれており、5つの経済貿易協力戦略計画が策定され、参加国の閣僚によって調印された。

直近の2016年10月のフォーラム・マカオ閣僚会議では、中国の李克強首相が、中国・PSCs間の協力を強化するための18項目の新たな取り組みを発表した。そのうちの5項目は、サービスプラットフォームとしてのマカオの役割の推進に関係している。

- 中国・PSCs企業間の協力を金融面で支援するため、マカオ特別行政区による中国・PSCs向け金融サービスプラットフォームの開発を支援すること。

- 中国と PSCs の企業取締役協会を設立し、その事務局をマカオに設置すること。
- 政府が資金援助する中国本土-マカオの共同学位プログラムへの参加をマカオに促すことや、PSCs 参加国のための実地の学位教育拠点を 30 カ所設置することを通じて、中国語とポルトガル語のバイリンガル人材のトレーニング拠点をマカオに築くこと。
- 中国・PSCs 間の文化交流センターと、中国・PSCs 間の青少年イノベーション・起業センターをマカオに設立すること。
- 中国・PSCs のための商業・貿易協力プラットフォーム複合体をマカオに設立すること。このプラットフォームは、貿易、投資、コンベンション・展示会および文化などの複数の分野で中国・PSCs 参加国間の協力を支援する。

また、フォーラム・マカオとマカオ特別行政区政府は、中国ポルトガル語圏国家間の経済貿易協力のための経済人会議を毎年開催している。2005 年以来、さまざまな PSCs が会議の主催国を担当している。

3 つのセンター

現在、中国・PSCs 間のサービスプラットフォームとしてのマカオの役割は、3 つのセンターを中心に展開している。そのセンターとは、PSCs 中小企業向け商業・貿易サービスセンター、PSCs 向け食品配送センター、中国・PSCs 間の経済貿易協力のためのコンベンション・展示会センターである。3 つのセンターのコンセプトは、第 4 回閣僚会議（2013 年）で初めて提示された。

PSCs 中小企業向け商業・貿易サービスセンターは、中国本土、マカオやさまざまな PSCs の中小企業を支援している。また、ビジネス代表団の派遣などの複数の商業・貿易活動も随時企画している。

PSCs 向け食品配送センターは、食品産業における中国・PSCs 間の協力を推進する任務を課されている。これには、ポルトガルの食品を中国本土に紹介するといった複数のマーケティング活動が含まれる。

中国・PSCs 間の経済貿易協力のためのコンベンション・展示会センターは、コンベンション・展示会の活動に関する中国・PSCs 間の協力の推進を主に担当する。これら 3 つのセンターのすべてが、[オンラインとオフライン](#)のサービスを統合し、中国と PSCs の企業を支援している。

マカオは、中国本土、マカオ、PSCs の間の情報流通を強化するため、情報共有プラットフォームを積極的に確立しようとしている。マカオは 2015 年、中国および PSCs の関連商業・貿易情報を提供するため、[中国ポルトガル語](#)

[圏国家経済貿易協力および人的資源ポータル](#)を設立した。これには、PSCs の食品と中国語・ポルトガル語のバイリンガル人材のデータベース、ならびに専門サービス業者、コンベンション・展示会および経済貿易活動の情報が含まれる。

また、マカオは、中国語とポルトガル語の両方に精通したバイリンガル専門人材の育成施策も実施している。こうした施策としては、フォーラム・マカオ訓練センターの設置や、定期的な協議および交流といった活動の企画が挙げられる。

3つのセンターや中国ポルトガル語圏国家経済貿易協力および人的資源ポータルの設置は、関連商業・貿易情報を中国とPSCsの企業に提供することを主な目的としている。例えば、PSCs 中小企業向け商業・貿易サービスセンターは、主に中小企業向けの相談サービス機関として活動しており、PSCs 向け食品配送センターは、PSCs の食品（ほとんどはポルトガル産）の現物を展示する施設を提供している。

また、マカオは中国・PSCs のための商業・貿易協力プラットフォーム複合体の建設を計画している。この複合体では、経済・貿易取引、法人向けサービス、コンベンション・展示会、文化に関する展示、人材訓練の機能を統合する予定である。さらに、中国とPSCs の関連政府機関、団体、コミュニティのために、コンベンション会場、事務所や情報センターを提供する役割も果たす。

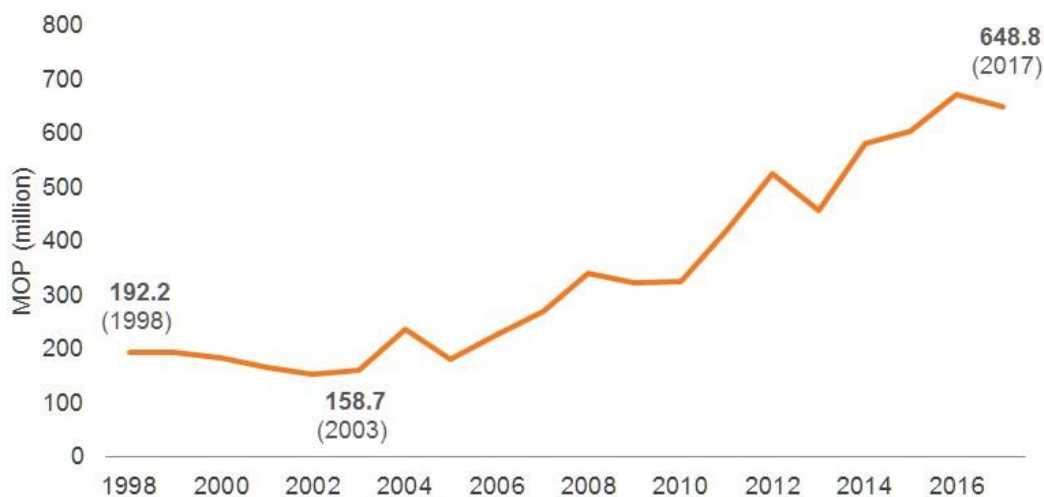
開発の余地

過去15年間で、マカオとPSCsの経済貿易協力の重要性は大幅に高まった。両者間の輸出入額は、中国へのマカオ返還以降で2倍以上に増加しており、1998年の約1億9,200万マカオ・パタカから2017年には6億4,900万マカオ・パタカとなった。2003年にマカオが中国・PSCs間のプラットフォームとしての役割を確立する前、マカオ・PSCs間の貿易額はやや減少していたが、それ以降は大幅に増加している。

マカオのPSCsからの輸入額は特に大きく増加しており、1998年の約1億5,800万マカオ・パタカから2017年には6億4,800万マカオ・パタカとなった。これは300%以上の増加であり、マカオ・PSCs間の貿易総額の増加率を大幅に上回る。

マカオとPSCsの貿易のほとんどは、ブラジルおよびポルトガルを相手国としている。2017年のマカオ・PSCs間の貿易の59%はブラジル、41%はポルトガルとの間で行われたものだった。対照的に、モザンビークまたはアンゴラとの貿易は1%未満だった。

Total Import and Export Values between Macau and PSCs



Source: Statistics and Census Service, Macau SAR Government

マカオ・PSCs 間の貿易はマカオの貿易総額の 1%未満を占めるにすぎないが、マカオの中国・PSCs 間プラットフォームを通じて実施される貿易活動のほとんどは、オフショアで行われると考えられている。これはマカオを物理的に通過することなく、中国本土に直接輸送される商品に関するものである。

マカオ・PSCs 間の貿易のほとんどは、ワイン、オリーブ油およびイワシといった食品に関するものであり、その多くはポルトガルの中小企業が生産している。2017 年、マカオが PSCs から輸入した商品の約 54%は肉および食用のくず肉で、11%は飲料、アルコールおよび食酢だった。PSCs（特にブラジル）の大企業の多くは、中国の輸入企業との間で直接的な取引関係を既に築いているため、マカオが中国・PSCs 間のプラットフォームとして提供するサービスは、ほとんどが中小企業を対象としたものになる。

マカオ・PSCs 間の商取引の成長にもかかわらず、PSCs 諸国は現在、マカオや中国本土との貿易において優遇措置や特別な地位を享受していない。例えば中国は、PSCs からマカオを通じて輸入される食品の貿易について、特にインセンティブを提供していない。個別のケースにおいて、マカオで加工される原材料（東ティモールから輸入されるコーヒー豆など）に対し、中国本土に輸出される際の原産地に関して[経済連携緊密化取決め（CEPA）](#)の基準に準拠した取り扱いがなされるという場合はある。しかし、一般に PSCs からの輸入品の原産地要件は、PSCs 以外からの輸入品に適用されるものと全く変わらない。

マカオが PSCs との事業取引において優位性を持つと考えられる分野は言語である。マカオ特別行政区基本法は、「マカオ特別行政区の行政、立法および司法当局は、中国語に加えてポルトガル語を使用することができる。また、ポルトガル語は、本特別行政区の公用語である」と定めている。

しかし、2016 年のマカオの中期人口統計によれば、ポルトガル語に堪能な人材は人口の 2.3% にすぎない。このため、マカオは近年、中国語とポルトガル語に堪能なバイリンガル専門人材をより多く育成するための施策を実施している。こうした施策には、フォーラム・マカオ訓練センターの設立、交流活動の企画や、マカオの学生が PSCs で学ぶための補助金の提供などがある。マカオでポルトガル語学習の人気の高まることにより、将来的に中国・PSCs 間のプラットフォームとしての役割を開発するうえで利益となることが期待されている。

マカオ政府はワン・プラットフォーム戦略の下で、中国・PSCs 間、特に中小企業の間における商業情報の交換を促進するための施策を段階的に推進している。また、貿易協力を食品や酒類以外の商品に広げる取り組みも進んでいる。しかし、中国・PSCs 間のプラットフォームとしてのマカオの役割を形成するうえで、さらなる開発の余地があることは明白である。

香港にとっての機会

プラットフォームとしてのマカオの役割は、依然として発展途上の段階にある。しかし、マカオと PSCs の歴史的な関係や、中国・PSCs 間のプラットフォームとしての役割に対する中国政府の積極的な支援を踏まえると、この分野におけるマカオの発展や、それによって生まれる可能性がある機会に対して、香港は細心の注意を払うべきである。さらに、広東・香港・澳門大湾区の発展は、香港が PSCs とりわけ中小企業との商業・貿易ネットワークを強化するうえで、マカオのプラットフォームの利用を促進する役割を果たすとみられる。

香港とマカオが協力を検討すべき分野の一つは、コンベンション・展示会産業の成長の促進や、こうした産業のサービス地域の PSCs 市場への拡大である。マカオ政府は、2016 年度の施政方針演説において「コンベンション・ファースト」の政策を発表した。一方、香港は、長年にわたって広範囲かつ国際的な展示会ネットワークを構築している。

PSCs の企業は、中国などのアジア太平洋地域の市場に進出するうえで、香港の国際的な展示会プラットフォームを活用することができる。一方マカオは、PSCs との歴史的な関係や、PSCs に関する知識を生かし、中国および PSCs の企業（特に中小企業）間の架け橋としての役割を果たすことや、カスタマイズされた専門サービスを関係者に提供することが可能である。

こうした分野におけるそれぞれの強みを通じて、香港とマカオは、各自のコンベンション・展示会産業を推進する際にお互いを補完し得る。両者が協力して、PSCs 市場を対象とした専門展示会・コンベンションを共同で企画することも可能となる。

また、香港の企業は、PSCs の企業との関係強化にあたり、マカオのプラットフォームを活用することができる。現在、PSCs と中国本土・マカオ間の貿易は、主として食品に重点が置かれており、同セクターの開発を促進するための複数の施策が実施されている。

PSCs 向け食品配送センターは、中国ポルトガル語圏国家経済貿易協力および人的資源ポータルの一環として、PSCs の食品のオンラインデータベースに加え、PSC 食品展示センターというオフラインの実店舗を設立した。この店舗の目的は、PSCs の食品の宣伝を強化し、食品、サプライヤーや販売店に関する情報を企業に提供することである。中国で輸入食品の需要が急増していることを踏まえると、食品輸入セクターの香港企業が、他社との協力の機会を発見するために同センターを活用することは得策と考えられる。

マカオは他の商品（衣料、コーヒー、医薬品など）やサービスへのプラットフォーム機能の拡大に熱心に取り組んでいるため、PSCs との商業・貿易関係の強化を望む香港企業は、上記の開発動向に対して特に細心の注意を払うべきである。